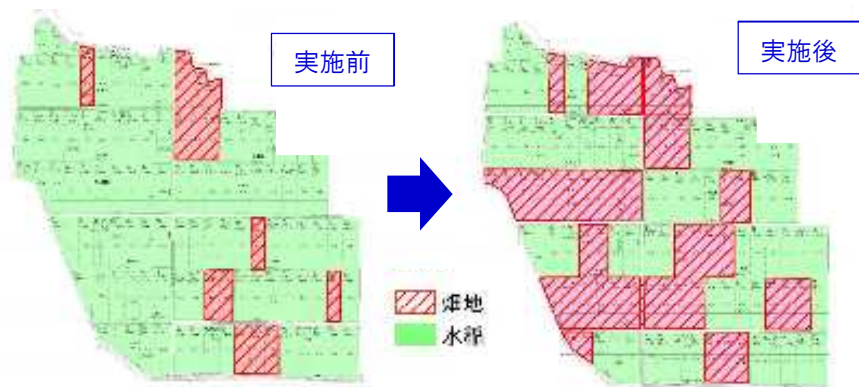
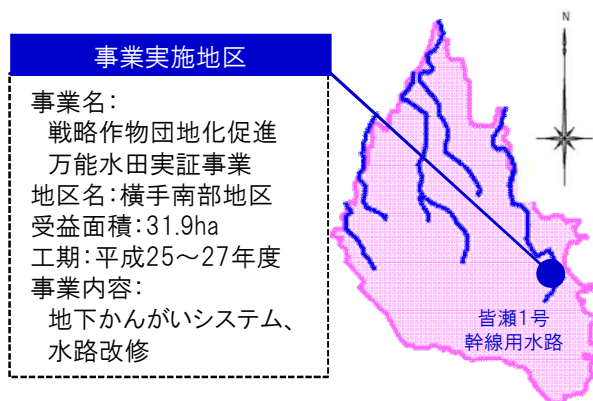


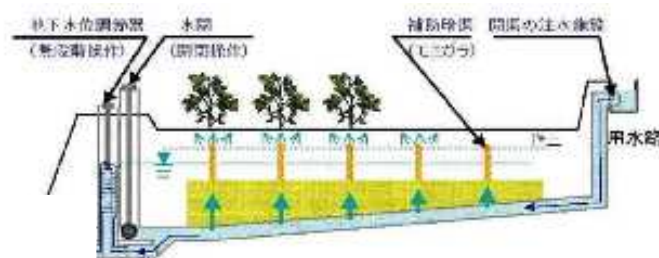
新たな「土地改良長期計画（平成28年8月24日閣議決定）」では、「豊かで競争力ある農業」実現のため、産地収益力の向上を掲げています。米中心の営農体系から野菜等の高収益作物を中心とした営農体系への転換など、農業者の自立的な経営判断に基づく生産を促すため、水田における畑作物の導入及び品質向上・収量増を可能とする排水改良や地下水位制御システムの導入を推進しています。

TOPIC 1 地下灌漑システムの導入により、高収益性作物の栽培を拡大

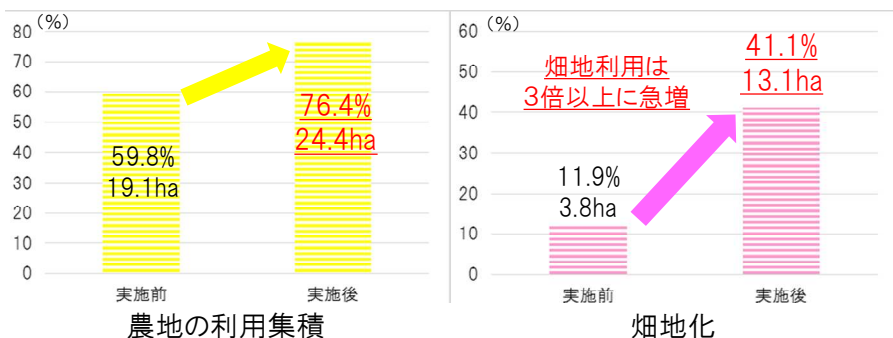
- ✓ 営農形態に応じて地下水位をきめ細やかに管理できる「地下灌漑システム」を導入。
- ✓ コメを大幅に減らし、新たにキャベツの作付けを開始することで、本格的なコメ依存からの脱却。
- ✓ 地区内農地の利用集積率は76.4%に上昇、畑地利用は3倍。
- ✓ 地域の雇用創出にも効果を発揮（収穫時期延べ約280人）。



事業実施前後の作付け状況



秋田県の地下灌漑システム模式図



横手市平鹿町醍醐
（秋田県平鹿地域振興局）

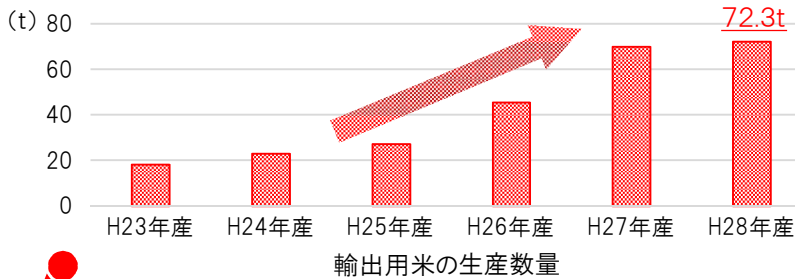
TOPIC 2 集落全体で取り組む環境保全型農業を通じたコメ輸出の展開

- ✓ 集落全体の利益確保に向けて、営農組合の全59戸がエコファーマーの認定を受け、減農薬・減化学肥料の特別栽培米を生産。平成28年11月、JGAPアドバンス認定を取得。



JGAPは、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証です。
GAP: Good Agricultural Practice

- ✓ 他県の米卸売業者と米輸出を目的とした株式会社を設立し、A-FIVEの出資を受けつつシンガポール等への米輸出事業を展開。



農事組合法人 樽見内営農組合

経営規模: 44ha(H17) → 91ha(H28)
組合員数: 24人(H17) → 59人(H27)
主要作物: 米77ha
(主食用米50ha、輸出用米12ha、飼料用米等15ha)
そば4ha、すいか0.8ha、小菊0.5ha、枝豆0.5ha



伊勢丹シンガポール
東北フェア
(平成28年11月)

インタビュー (農)樽見内営農組合 渡部さん

米の輸出について将来展望を聞かせてください。

ーシンガポールでの米の需要はまだ小さいですが、日本産米は品質で十分勝負できると考えています。今後は、外国を相手に商売をするという意識改革を進め、若い後継者の育成を推進したいと思います。

土地改良事業に対する意見を聞かせてください。

ー高齢化が進むにつれ、水路法面の草刈りをはじめとする施設の維持管理は益々大変になっています。平成19年に始まった農地・水保全管理支払はよく考えられた画期的な仕組みだったと思います。土地改良事業も高齢化を踏まえた大きな変革が必要な時期にきているのではないかと思います。

TOPIC 3 2年3作の栽培体系により収益性の高い農業経営を確立

農事組合法人 塚堀農事生産組合

経営規模: 238ha
組合員数: 10名
主要作物:
米、小麦、すいか、キャベツ、
大豆、タマネギ、ほうれん草

- ✓ 水稻・WCS→小麦→キャベツの2年3作の栽培体系により収益性の高い農業経営を確立。
- ✓ 茨城県の企業と連携してカット加工用のキャベツを栽培。タマネギは横手市内の学校給食センターに提供するなど、市況に左右されない安定供給を実現。
- ✓ 農地中間管理事業を活用し、経営規模を238haまで拡大(→P.20)。



水稻



小麦



キャベツ

	1年目				2年目			
	1 ~ 3	4 ~ 6	7 ~ 9	10 ~ 12	1 ~ 3	4 ~ 6	7 ~ 9	10 ~ 12

水稻・WCS ◆直播も実施

小麦 ◆稲刈り後に耕起～播種

キャベツ ◆小麦収穫までに苗を育て、小麦収穫後に植え付け

TOPIC 4 取引先のニーズに対応できる栽培体系で収益力を向上

- ✓ 取引先の様々なニーズに対応するため、米・そば・野菜・果実などを出荷時期を考慮しながら栽培。
- ✓ そばは二期作、小麦は二年三作を行うなど農地をフル活用。そばは自社の乾燥調整施設を活用し、収穫から販売まで延べ約190haを受託。

農事組合法人 きずな

組合員数: 34戸

主要作目: 水稻 36.2ha、そば17ha、枝豆4ha、大豆0.6ha、すいか0.2ha、トマト0.2ha、ネギ0.5ha、葉菜類0.2ha

受託: そば作業(夏秋延べ)190ha



インタビュー きずな代表 齋藤さん

取組みのきっかけを教えてください。

--若いときから秋田県の米依存型農業に不安を感じていました。そばは20年近く前から栽培しています。

多品目栽培にあたって農地の使い分けはしていますか。

--客土水田は水稻、基盤整備済ほ場は転作、未整備ほ場はそばといったように、ほ場条件に合わせて使い分けをしています。

国営事業に対する意見を聞かせてください。

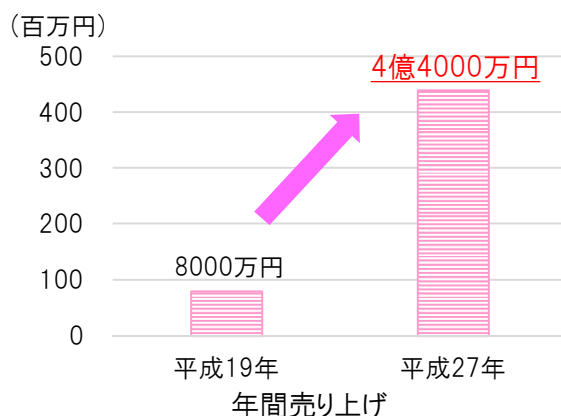
--この地域ではこれまで度々湛水被害を受けてきました。最近は転作が増加していることから、排水整備の重要性は益々高まっていると思います。

TOPIC 5 地元の農産物を加工・販売し、年間売り上げ4.4億円へ

道の駅十文字

設立時期: 平成19年9月
会員農家数: 260戸
内容: 地元農産物の加工・販売
来客数: 62万人(H27)

- ✓ 地域の交流の場として、加工施設を併設した直売所「道の駅十文字」を設立。
- ✓ 地元の農産物にこだわり、横手市産は全体の95%。会員農家は市内に約260人。農家自ら価格を設定して販売。
- ✓ 県内外のアンテナショップ、病院、役所などでの外販を積極的に展開。



道の駅「十文字」の外観



加工施設



加工品の販売



農家自身が持ち込み・陳列



直売所の様子

新たな「土地改良長期計画」では、「豊かで競争力ある農業」実現のため、担い手の体質強化を掲げています。畦畔除去による簡易な大区画整備や、農作業の負担軽減を図るための遠隔監視操作を可能とするICTの導入等を推進しています。また、農地中間管理機構との連携を更に強化し、担い手への農地の集積・集約化を加速することとしています。

TOPIC6 農地中間管理事業等を活用し経営規模を238haまで拡大

✓ 基盤整備事業(清水町地区)では、

① ほ場の7割が均平であることを活かし、安価な畦畔除去により、2～3haの大区画ほ場を整備。

② 農地中間管理事業を活用し、81%の農地を集積。

✓ 地区内の中心経営体の1つである(農)塚堀農事生産組合は、農地中間管理事業等を積極的に活用し、経営規模を238haまで拡大。

農地集積加速化基盤整備事業 清水町地区

工期：平成23～28年度

基盤整備面積：

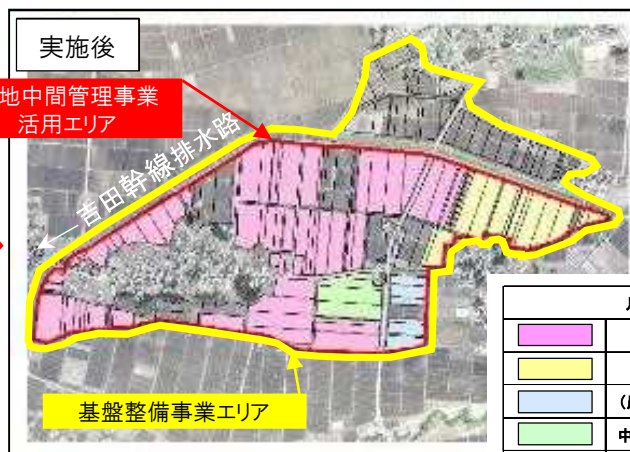
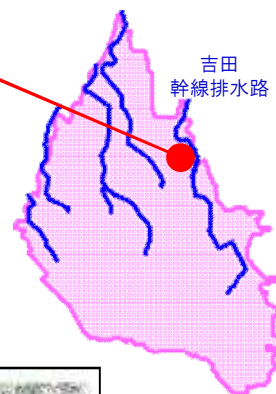
66.13ha

中間管理事業エリア面積：

55.30ha

中間管理事業活用集積面積：

44.82ha



凡 例	
	(農)S町
	(農)G会
	(農)塚堀農事生産組合
	中心経営体(個人)

インタビュー (農)塚堀農事生産組合 鈴木さん

農地中間管理事業を活用した感想を聞かせて下さい。

---毎年の賃料が機構から確実に振り込まれるので、法人経営の上でも事務負担が軽減されて助かっています。地域集積協力金は、地域農業を担う4中心経営体で農業機械の購入資金に活用しました。法人の経営安定及び地域農業の振興と発展に繋がっています。

国営事業に対する意見を聞かせて下さい。

---農地集積を進める上で、用排水施設の整備は不可欠です。国営事業で基幹施設をしっかりと整備してもらうことで、末端施設の整備も進みます。



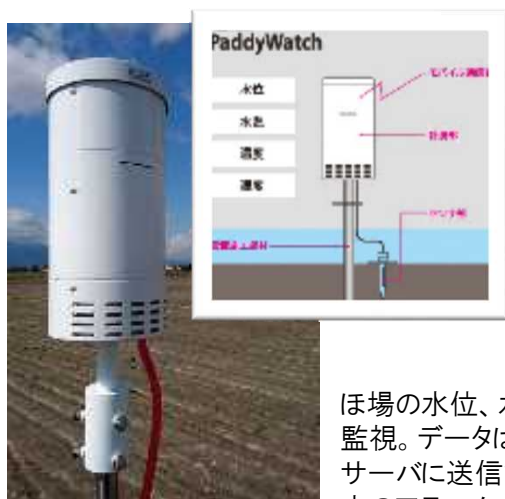
- ✓ 首都圏からUターンした若手農業者らが中心となって管理・運営するライスセンターで、集落の半分に当たる約180haのコメを受け入れ。
- ✓ 農地の集積を進めつつ、**水田センサ「パディウォッチ」**や、**生産管理システム「アグリノート」**を導入し、水田作業を効率化。



農事組合法人 館合ファーム

法人設立:平成19年
組合員数:17戸
経営規模:36.2ha
主要作物:
米(あきたこまち)22ha
飼料用米10.9ha、
すいか2.6ha

パディウォッチ



ほ場の水位、水温、気温、湿度を24時間自動監視。データは10分毎に記録され、クラウドサーバに送信される。異常発生時には情報端末のアラームが鳴る。

アグリノート



①作業員の作業記録、②肥料・農薬散布等の生育記録、③収穫記録等をスマート管理。

インタビュー (農)館合ファーム 小西さん

取組のきっかけを教えてください。

--平成19年にJAあきたふるさとからライスセンターの管理・運営を引き受けたことを契機として法人化しました。集落の高齢化等の影響もあり、年々利用者は増え、平成28年度の施設稼働率は140%に達しました。

農業ICTの活用について教えてください。

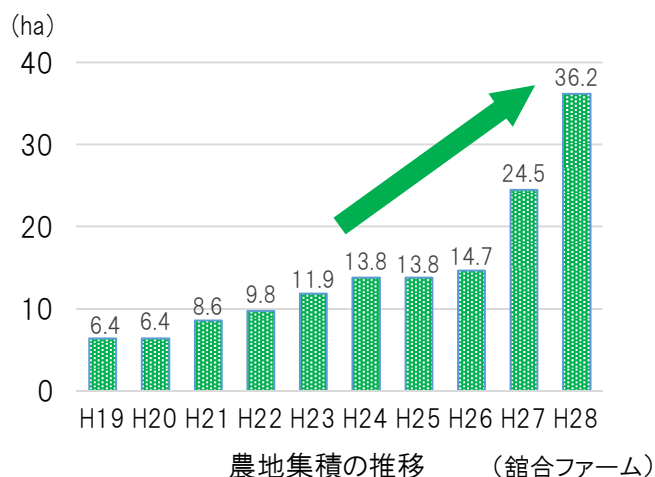
--きっかけはJAからの提案でした。水管理センサは1ha毎に1台で計4台設置しています。取組みはまだ始めたばかりであり、より良い活用法を模索しているところです。

現在直面している課題等があれば教えてください。

--年々米の刈り取り受託面積が増加していますが、農地がまばらであるため作業効率が上がりません。農地の団地化が進めば効率は格段に上がると思います。

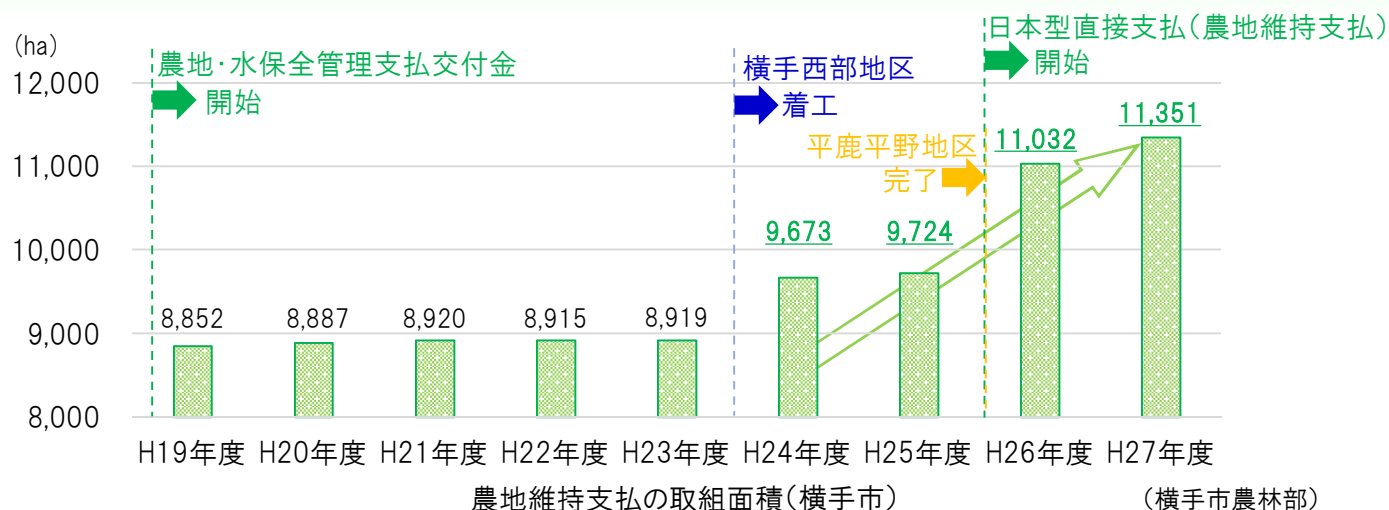
今後の目標を教えてください。

--新たにハウスを30棟建設し、ハウレン草やすいかの栽培を拡大し、年間1億円の販売を目指したいと考えています。



法人の中心施設 ライスセンター

新たな「土地改良長期計画」では、「美しく活力ある農村」実現のため、農村協働力と美しい農村の再生・創造を掲げています。将来にわたって多面的機能の維持・発揮を図るとともに、農業の構造改革を後押しするため、多様な人材の参画や集落間連携による取組の広域化を促進し、農村協働力を活かした地域資源の保全管理体制を強化することとしています。



特定非営利活動法人 樽見内地域資源保全委員会

法人登記:平成19年

協定農用地:259ha

会員:個人会員234名、団体会員22団体
事業:

- ① 農村環境及び農村資源の保全及び質的向上を図る事業、
- ② 子どもの育成に関する事業、
- ③ 農村の伝統や慣習の継承に関する事業、
- ④ 少子高齢化の農村における福祉に関する事業

✓ 古き良き農村集落の営み「結い」をテーマに掲げ、農業の先輩者より、昔の農法、村の営み・行事等を教わり、再現することで、今の時代にふさわしい「結い」の姿を模索。

✓ 平成27年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」で、農林水産大臣賞を受賞。

私たちの祖先が見だし、私たちの時代に忘れた「結い」をまた地域ぐるみで復活し取り組むことにより、少しでも農村環境の向上につながれば良いと考えています。集落の皆が夢を持ち、皆で集落を守っていく、そんな集落の姿を私は夢見ています。



農地維持活動 草刈り



資源向上活動(長寿命化)



景観形成 夢花壇



地域住民との交流 施設訪問



農村文化の継承



農村文化の継承

個性と活力ある豊かな平鹿平野の実現に向けて
地域農業を牽引されている方々



館合ファーム

- ・構成農家数： 17戸
- ・経営規模： 36.2ha
- ・主要作目： 米、すいか
- ・運営するライスセンターで185haの水稻を受け入れ。



塚掘農事生産組合

- ・構成農家数： 10戸
- ・経営規模： 238ha
- ・主要作目：米、小麦、すいか、
キャベツ、大豆、タマネギ、
ほうれん草
- ・中間管理事業等を活用し、経営規模
を拡大。



農事組合法人きずな

- ・構成農家数： 34戸
- ・主要作目： 米、そば、枝豆、大豆、すいか、トマト、ネギ、葉菜類
そば作業受託190ha
- ・出荷時期を考慮した多品目栽培を実践。

秋田県平鹿地域振興局農林部
横手市農林部

東北農政局 平鹿平野農業水利事業所

雄物川筋土地改良区



道の駅 十文字

会員農家数：260戸
 産直品：販売の95%は地元産品
 販売額：4億4,000万円（H27）
 来客数：62万人（H27）



樽見内宮農組合

- ・構成農家数： 59戸
- ・経営規模： 87.6ha
- ・主要作目： 米、そば、すいか、
 花卉、枝豆
- ・集落全体で取り組む環境保全
型農業を通じたコメ輸出の展開。

[illegible]



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

東北農政局 平鹿平野農業水利事業所

〒013-0051

秋田県横手市大屋新町字大平99-39

電話：0182-35-7781

FAX：0182-35-7784

